

茨城県 社会福祉士会 NEWS

NO. 59

発行 一般社団法人 茨城県社会福祉士会
Ibaraki Association of certified Social Workers

発行日 平成29年11月22日<2017. 11. 22>

編集 広報事業部

事務局 〒310-0851

茨城県水戸市千波町1918

茨城県総合福祉会館内

Tel : 029-244-9030

Fax : 029-244-9052

ホームページ <http://www.csw-iba.org/>

Eメール csw-iba@ibaraki.email.ne.jp



2019年開催決定!!
第27回 日本社会福祉士会全国大会
茨城大会
2019年6月1日(土)～2日(日)
in つくば国際会議場

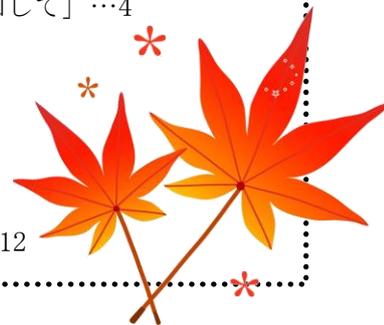
茨城県での『第27回 日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会』の開催が決定いたしました！
 2019年6月1日(土)～2日(日)、会場はつくば国際会議場です。会員の皆さまには大会の成功に向けて、積極的なご協力を頂けますようお願いいたします。一緒に大会を作っていきましょう！
 また、沢山の方に茨城大会へご参加頂けるよう全国の皆さまへの周知お誘いもお願いいたします。

★ご案内★

3月25日(日)に茨城県社会福祉士会定時総会を開催いたします。

なお、時間等の詳細は後日お知らせいたしますので、皆様ご予約の調整をお願いいたします。

目次、日本社会福祉士会全国大会 2019 茨城大会開催決定！…1
 「2017年度 第1回 共通基盤研修に参加して」…2～3
 「ソーシャルワーカーデー2017in いばらきに参加して」…4
 「認知症のミカタが変わるに参加して」…5
 会員の声「大切にしていること」…6
 ブロック活動報告…7～11
 (県北ブロック、県央ブロック、県南ブロック、
 県西ブロック、鹿行ブロック)
 ブロック長会議開催、お知らせ、編集後記・・・12



2017年度 第1回 共通基盤研修に参加して



県央ブロック 下間 雪絵

私は、9月30日、10月1日に太子町の太子温泉「やみぞ」で開催された2017年度 第1回 社会福祉士共通基盤研修に参加させていただきました。

1日目の午前の部は「生活構造」の分野より、「様々な生活場面で活動するソーシャルワーカー～子ども家庭支援での実践から～」というテーマでシンポジウムが行われました。

土浦児童相談所に所属されている菊地美帆氏、茨城県スクールソーシャルワーカーに所属されている古森むつみ氏、キッズハウスえくぼひたちなかに所属されている黒田卓氏より、各々自身の取り組みやソーシャルワーカーの役割などについて話していただきました。子どもの置かれている生活構造や環境は様々であるがゆえに、子どもの権利を常に念頭において支援することを忘れずに、我々ソーシャルワーカーがどれだけ重要な役割を持っているかを再認識させられました。

1日目の午後の部は「日本社会福祉士会における高齢者虐待対応専門職チームのスタンダードモデルについて」、「三重県における高齢者虐待防止専門職チームの成り立ちと現在の活動について」というテーマで三重県社会福祉士会に所属されている市川知律先生より御講義していただきました。日本社会福祉士会のスタンダードモデルとして提示している中で、「助言者（アドバイザー）であること」ゆえに決定権を奪わないことが大切であり、相手方によっては助言内容を開示請求してほしいと要求してくるケースもあるとのことでした。そのため、助言内容を記録として残さなければならない、その内容はとても重要視されているものだと感じました。そして、各専門職（弁護士、社会福祉士）が単独で助言するものではない、「チームとして助言に当たること」もチームの一員として忘れてはならないことを学びました。

三重県高齢者虐待対応チームは平成25年に任意団体として設立。市町村との契約はこの団体と締結。現在の活動として急増しているのは、従事者虐待への対応の依頼であり、自治体での問題となっている現状があるとのことでした。また現在の課題として、法的根拠だけでの助言をしている委員が多く、「弁護士と社会福祉士の立ち位置が不明確になることがある」というお話があり、社会福祉士としての専門性が問われていることに気付かされました。

2日目は「施設従事者による虐待における検証作業と要因分析」というテーマでの演習を、今回は高齢者分野における従事者虐待を事例に私たちが専門職チームとして関わった時に、①どんな資料を法人に公開してもらうか、②聞き取りから発生要因の分析と改善計画を立てる、ということで6グループに分かれ、グループワークを行いました。

①について様々な資料を公開してもらうこととなりますが、経験年数や所有資格を含む組織図や身体拘束禁止についての研修や委員会の資料も大切ですが、虐待が行われてしまった前後の背景がわかる資料も欠かさないこと、②については課題に対する目標を立て、その目標を達成するための具体的な役割分担を明確にすること、これは普段の相談業務の中での支援計画に通ずるものがあるのではないかと思います。

まとめとして市川先生より専門職チームにおいて、社会福祉士が行っていることは「個別の支援の検証」であるとのことでした。この専門職チームでは社会福祉士だからこそ見られる視点を持ち続け、支援していくことが重要であると思いました。

私は社会福祉士会に入会してから、今回この共通基盤研修に初めて参加させていただきました。今までの相談援助業務において、社会福祉士としての支援だったのだろうか振り返った時、恥しい部分が多くあります。これからは多くの研修等に参加し、社会福祉士として何が期待されていて、私だからこそできる支援は常に何かを考えながら、業務にあたっていきたいと思います。



2017年度 第1回 社会福祉士共通基盤研修 Photo

《生活構造》シンポジウム

「様々な生活場面で活動するソーシャルワーカー」～子ども家庭支援での実践から～



キッズハウスえくぼ ひたちなか
黒田 卓氏

茨城県スクールソーシャルワーカー
古森 むつみ 氏

土浦児童相談所
菊地 美帆 氏

コーディネーター
茨城県社会福祉士会 竹之内会長

《権利擁護》講義

「日本社会福祉士会における高齢者虐待対応専門職チームのスタンダードモデルについて」

「三重県における高齢者虐待防止専門職チームの成り立ちと現在の活動について」

講師 有限会社 With A Will 取締役 市川 知律 氏



《権利擁護》演習

「施設従事者による虐待における検証作業と要因分析」

講師 有限会社 With A Will 取締役 市川 知律 氏



会場の「太子温泉やみぞ」と周辺の風景



ソーシャルワーカーデー2017 in いばらき 「引き出す・認める・伴走する」に参加して



県南ブロック 西村 礼子

講師の朝山あつこ氏は3人の子を持つ専業主婦だったが、長男の通う中学が学校崩壊し、牛乳パックを照明に投げつける荒れた子供や無気力な子供が大勢いた。長男は「高校へ行かない」と言い出し、母親がしてあげられることは何だろうと考えた。本人の気持ちがわくわくして動きださずにいられない原動力（これをわくわくエンジンと名付けた）を探し出すのが母の仕事と思い、長男の話を聴いていた。長男一人だけが幸せに生きて、周りの友人が幸せでなければ、長男は幸せにはなれない。そこで、すべての子供たちが自分を活かして生きていってほしいから、2000年12月NPO キーパーソン21を設立した。NPOのことがよく分からないまま、就職したこともない私が立ち上げた。

ここで、隣の人とグループワーク（①子供、利用者にどんな人になってほしい？②どんな親・先生だったと言われたい？）があり、自分たちが子供を枠に入れようとしていたことに気づかされた。

次に朝山氏の提案があり、枠を「わくわく！」に変えよう。子供を既存の職業に埋めることは、ビールケースに太ったビール瓶もやせたビール瓶も無理やり入れ込むようなものだ。はじめから無理があるからやる気をなくす。社会は変化して未来の職業も予測不能だから、変化に対応して生きていける自立できる子供に育てていこう。

キーパーソン21の「夢！自分！発見プログラム」は子供のわくわくエンジンを引き出し、未来の自分に希望を持つキャリア教育である。楽しいゲーム形式で自分を知る。社会を知る。自立する。自分を知ることが一番大切だ。楽しい！を大切にするプログラムで、ファシリテーター（大人）がついて、自分で考え、選択、行動する力を引き出し、認め、伴走する。暴れている子はエネルギーを向ける先がわからない子と考える。行先がわかれば自分を活かすことができるようになる。野球好きと一口に言っても作戦、戦略好きな子と、人の役に立つのが好きな子と、日々の練習で成長を楽しみ小さな変化を喜びに変えることのできる子のように、わくわくエンジンは皆同じではない。

NPO キーパーソン21は川崎で低所得者の子供の学習支援教室を2か所受託している。中学3年のやる気も勉強習慣もなかった男子Aには彼女がいて、幸せな家庭を築きたい⇒好きなことで稼ぎたい⇒物を作るのが好き⇒宮大工になりたい⇒建築科のある高校で資格を取りたい⇒定時制に入りたくなった。勉強し学力が付き始めた時、途中でやめた。わくわくエンジンはこうだったねと話したら、勉強を再開して全日制に入学できた。キーパーソン21は子どもの中にある原石を認めて引き出している。一番大切なことは一人一人を認めるという行為であり、「へえー！そうなんだ」と認めることである。

最後に4人グループで自分のワクワクを話し合い、一枚の紙に名前、日付、仕事、わくわくエンジンを記入した。人は時に仕事がつらくて目標を見失う時があるから、読み返してほしいと言われた。

グループワークを通し他の参加者の活動を知ることができ、大変な中にもそれぞれのやりがいを感じられてよかったですと思います。ソーシャルワークは疲れを感じやすい仕事だからこそ、自らのわくわくエンジンを再確認しながら、日々の仕事に取り組んでいきたいと思っています。大変有意義な講演でした。



ソーシャルワーカーデー研修会は茨城県精神保健福祉士会と茨城県ソーシャルワーカー協会と茨城県社会福祉士会の3団体合同で開催いたしました。

認知症のミカタが変わる

～認知症スタジアム 本當に知ってほしいこと～に参加して



龍ヶ崎市役所 山口 めぐみ

平成29年10月14日(土)、台風21号が近づく悪天候の中ではありますが、37名の方が参加され、研修会は定刻通り開始しました。

講師は(株)harunosora代表取締役・編集長/NPO法人認知症ラボ理事長 尾崎純郎氏。中央法規、メディカ出版で長らく認知症や介護、福祉、医療、老年心理学などの分野の編集者として活躍された方です。

テーマは「認知症」。冒頭に、「認知症になることを前提に、社会や人生を考える方が現実的だと考えるべきではないか」とのお話がありました。「認知症になると人格が失われることは否定できないが、尊厳は失われない」という言葉は印象的でした。

前半は介護保険導入前の施設の状況、入所者の処遇等について、写真を見ながら講話を受けました。人前でのおむつ交換、個性のない髪型、つなぎ服、身体拘束などなど…写真からは、今ならば虐待とも取れる処遇が読み取れました。尊厳や人権はどこへ行った??という状況に、改めて認知症の方の人権について考えさせられるとともに、高齢者虐待の防止、対応、成年後見制度の推進等について、社会福祉士としての役割、重要性に気付く機会になりました。また、現在私自身が取り組んでいる、認知症の対応や施策の推進についても、更なる意欲が湧いてきました。

現在では認知症の当事者がご自身の思いを発信する場もでき、その思いを綴ったものも発刊されるようになりました。お話の中で、家族や自分の名を手帳に書き留め、薄れゆく記憶の中、それらを忘れないように何度も何度も文字をなぞっていた方の話をお聞きしました。鉛筆で強く押しつけられた文字から、その方の不安や無念の思いを察することができ、胸が熱くなりました。

後半は認知症についてお話がありました。記憶障害が現れるアルツハイマー型認知症、幻視、パーキンソンニズムが特徴のレビー小体型認知症、脳血管疾患が引き金の脳血管型認知症について、穏やかに語りかけるような口調でわかりやすく説明して下さいました。レビー小体が認知症を引き起こすということを発見者された小阪憲司先生との関わりや、レビー小体型認知症について詳しい説明もお聞きしました。虐待についても触れ、虐待防止策についてもお話をいただきました。

今回の研修では、認知症に関して分かりやすく学ぶことができたとともに、たくさんの方に気付くことができました。あっという間の2時間、もう少しお話を聞きたかったというのが率直な思いでした。

素晴らしいお話をして下さった講師の尾崎さん、企画をして下さった方々に感謝申し上げます。



大切にしていること

つくば市保健福祉部地域包括支援課 藤田 由夏

今の職場である地域包括支援センターに入職して、今年で4年目になります。

社会福祉士を志したきっかけは、高校生の時に自分の住む地域の高齢者が安心して暮らせる地域づくりに携わりたいと考えを持ったことです。

社会福祉士の資格を取得したのは17年前ですが、福祉に関する「相談援助」の専門職として、ご本人様やご家族の方から直接お話を伺い、生活の問題や悩みに触れ、ストレングスの視点を考え、社会福祉士として歩み始めたのは4年前になります。

以前は、他県の県社協に4年間勤務し、総務業務や健康福祉際、相談事業等を担当していました。県社会福祉士会の活動には細々と参加していましたが、直接援助業務をしていない、経験も創造力も足りない自分は、県社会福祉士会の活動に参加しても、仕事で研修会を企画しても、机上の空論でしかないように思っていました。

常に切なさを抱えていましたが、自分の周りには、地域の声に耳を傾け、誠心誠意、地域福祉と向き合う先輩方がいました。その先輩方から元氣や叱咤激励をいただき、何とか仕事をすることができました。県社協での4年間で、「住民主体の原則の意義」「価値と倫理を根底に置いたソーシャルワーク」を地域の皆様から教えていただきました。

その後、子育てに専念した8年間を経て、今も地域福祉の仕事ができる部署に所属しています。県社会福祉士会の活動は、細々と再スタートしました。今の職場に入職して、相談業務の礎には研修が必須と思い、基礎研修Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを受講しました。27年度に終了しましたが、基礎研修と一緒に受けたメンバーとは今も交流があり、LINEで各自の活動の報告があったり、お薦めの研修会の案内をやり取りしたりと、メンバーの活躍に元氣を貰い、自分も頑張りたい気持ちにさせてくれる、素晴らしいメンバーに出会うことができました。

また、基礎研修Ⅱ・Ⅲは、日程がタイトで追い込まれないとレポートを書かない自分には大変な時間でしたが、相談業務の基礎を再確認できただけでなく、組織マネジメントや政策的視点についても触れることができ、社会福祉士が組織運営に責任を果たす必要があることを、今までは他人事のように思えたことも自分事として捉えることができるようになりました。

休んでいた時間は長かったですが、社会福祉士になって17年。今まで、たくさんの出会いがあり、たくさんの人に支えられてきました。いつかお世話になった方々とまた、一緒に仕事をしたいと心から想っています。私がお世話になったように、私も同じように若い人たちと関わっていけたらと思います。そのためには、まだまだ経験が必要。出会いを大事に、家族を大事に、一緒に仕事をしている仲間を大事に、研修を大事に、一つひとつの大事なものをこれからも大切にしていきたいと思います。

★新規入会会員大募集中です★

職場やご友人に社会福祉士の資格をお持ちでまだ社会福祉士会に入会されていない方はいらっしゃいませんか？また、新たに社会福祉士国家試験に合格した方はいらっしゃいませんか？もし身近にそんな方がおりましたら、ぜひぜひ社会福祉士会への入会のお声かけをお願いいたします。

茨城県社会福祉士会事務局にも入会申込書を準備しております。お電話を頂くか、ホームページ (<http://www.csw-iba.org/>) にある入会申込書請求フォームから入会に必要な書類を請求できますので、大いにご活用ください。



県北ブロック便り

こんにちは。県北ブロック広報担当の石井です。

今回、県北ブロックとしては、回数が少なかったこともあり、さしてはご報告できない部分もありますが、その点をご了承下さいませ。

まず、例年ですと7月は「暑気払い」とのこと、夏の暑い最中で、いろいろと飲みながら、親交を深める目的にて実施してましたが、今回は参加予定者が余りに少なく、止むなく中止いたしました。

9月に入りまして「ぼんどう太郎 太田店」にて、集まりを持つことができました。例のごとく、うどんを食べながら…でありましたが(笑)。

今回は、今後の「県北 本音トーク」開催に向けて、どのような方向性を持っていくか?などについて、自由な雰囲気のもとで意見を出していただきました。



今後としては、県北地域が広い中で、なるべく「地域を限定せずに」開催地を広げた上で、より多くの方々が参加しやすい形に持って行けたら…という方向で開催していきたいと考えております。



皆様が住んでいる地域においても、出来る限り開催する方向をもって進めていきたいと思っております。距離の問題もあろうか…?とも思いますが、お近くにての開催になった際には、出来る限りの参加を募っていきたいと考えております。

今後とも、県北ブロック自体を活性化させていきたいと思っておりますので、可能な限りのご協力を、お願い申し上げます。



☆実践報告会に参加して☆ 栗田病院 白田勇輝

実践報告会の中で、キッズハウスえくぼひたちなか・黒田卓氏より、「賞賛の声掛けの重要性に関する一考察～放課後等デイサービス利用を通しての行動変化をもとに～」という実践報告があった。黒田氏の勤務先放課後デイサービスを利用している17歳男性Kさんの行動変化を場面的なひとつひとつの支援者の賞賛の声掛けや感謝の言葉、ジェスチャーがどのようにその後の本人の行動に影響を及ぼすことになっていくのかを5～6年間にわたり考察してきた実践報告であった。

Kさんは特別支援学校中学部1年生の時、利用開始。知的障害、広汎性発達障害があり、相手の話の理解はほぼ理解できるが、自分から会話を通しての発言は困難。利用開始から事業所内の物取り行為や自分本位の行動がある。



利用開始当初、支援者はKさんに対して「〇〇をしてはいけません」「〇〇するのはあぶないです」など行動を正すような声掛けを行っていた。利用年数を重ねるうちに、普段から賞賛の声掛けが多い職員とそうでない職員とでは本人の言動が異なることが分かり始める。また、行動の背景にはKさんなりの思いや支援者への気遣いがあることも分かるようになる。その後、支援者が「〇〇ができてすばらしいですね」「いつもいろんなことに気付いてくれてありがとうございます」など賞賛する声掛けを実践したところ、Kさんの物取り行為がなくなり、現在では、利用開始当初、問題行動と見られていた自分本位の行動もほとんど見られなくなる。支援者としても、賞賛の意味を考えていく過程の中で、行動の背景には何かしらのKさんの思いや気遣いがあるのではないかと立ち止まることが出来るようになる。

黒田氏の実践報告から「支援対象者の行動を見守り、行動の背景にある気持ちの根幹を知ること」、「支援対象者の課題を支援対象者の課題として捉えるのではなく、支援者が支援者の課題として捉えること」という部分についての視点を同じ支援者として、共有・共通化することが出来た。私は、支援者として、支援対象者が抱えている課題に対して、どう向き合えるかを自分に問う際に、自分に対して絶対的にいつも「ガチ」で向き合えるほど支援者として、人間として強い訳ではない。また、支援対象者を支援するのは私一人だけではないから、他の支援者と支援対象者の支援のあり方について、「温度差」を感じる時には大人気なく露骨に態度や言動にあらわしてしまい、周囲との軋轢を生んでしまうこともある。そんな時、「何とか」「かろうじて」「紙一重で」支援者としての自分を支えてくれるのは、同じ視点を共有・共通化している他者の存在である。

実践報告会に参加して、同じ視点を共有・共通化できる他者がいると感じられたことが、無性に、そして、単純にうれしかった。

☆第二回実践報告会 懇親会のお知らせ ☆

日時 平成29年11月25日(土曜日) 14:00～16:30まで

場所 総合福祉会館 3階 和室 定員 30名

実践報告者 ケアマネジャー 荒川会員/長田会員 からの報告になります。

※ 終了後、水戸駅から直ぐの「わさびの花」で懇親会 18:00～

も予定しています 他ブロックの方も大歓迎です ☆彡



県南ブロック活動報告

ホームページ ⇨ <http://ibanancsw.hp2.jp>

木の葉の色づきに秋の深まりを感じるようになってきましたが皆さまいかがお過ごしですか？今年度後半も県南ブロックでは定例会議、忘年会、研修会など計画しています。初めての方もまずは顔を出してみませんか？多くの皆様と繋がり共に学び交流できることを楽しみにしています♪

研修会「認知症のミカタ～認知症スタジアム本当に知って欲しいこと～」を開催しました！

10月21日は株式会社 harunosora 代表取締役・編集長、NPO 法人認知症ラボ理事長の尾崎純郎氏を講師にお招きし、「認知症のミカタ」と題して研修会を開催いたしました。

認知症の歴史や当事者の声、近年増えているレビー小体認知症について、高齢者虐待についてお話し頂きました。

捉え方としての見方、支援者としての味方、ご参加された皆さまの認知症の「ミカタ」はどう変わったのでしょうか？

2015年に厚生労働省が発表した新オレンジプランの中で2025年に認知症患者は700万人を超えると推計されています。誰もがなる可能性のある認知症、身近になっていることだからこそ生活の中で考えていきたいものですね。



定例会では学び合いの時間」を開催中

10月は福祉用具もんちゃんの佐藤会員に福祉用具の選定や修理等についてお話し頂きました。座面に立ち上がりのアシスト機能を付けた車いすをお持ち下さり、片麻痺の設定で皆さん体験。ちょっとしたサポートがあることで楽に立ち上がりができることに驚きの声も。エンジニアという前職を活かして、ご利用者様のニーズに合わせた改良や開発にも取り組まれているそうです。

次回12月は特養やすらぎの園の佐々木会員、2月は尚恵学園の角田会員が担当予定ですのお楽しみに!!



会員交流会を開催しました♪

8月19日にはシャトーカミヤにて毎年恒例の会員交流バーベキュー大会を開催いたしました。県央ブロック、県北ブロックの方にもご参加頂き、35名の皆さまにお集まり頂きました！



★次回のブロック定例会議★

12月16日（土）18時～

土浦市役所 2階 研修室 2

終了後には忘年会を開催します!!

詳細は県南ブロックホームページで☺

けんせいつうしん

朝晩の冷え込みが厳しくなってきました！くれぐれも風邪にはご注意を。
さて、今回のリレートークは、古河病院 医療相談室の桜井さんです♪

リレートーク8

古河病院地域医療連携室の櫻井育と申します。

私は大学を卒業後3年間、栃木県に本部のある障害者施設で勤務していました。グループホームの世話人、生活介護と就労支援事業B、就労移行支援事業で支援員と3年でしたが多くの事業に関わらせていただきました。栃木県に本部があったこともあり、職場の方に勧められ栃木県の社会福祉士会に入会しておりました。現在の職に転職し、前の職場でも大変お世話になっておりました古河市役所の相良様にリレートークのお話を頂いた事をきっかけに茨城県社会福祉士会に入会いたしました。

昨年10月に転職し現在医療ソーシャルワーカーとして勤務しちょうど1年がたちました。現在、主に整形外科病棟に入院されている患者様の退院支援や心理経済的な課題の解決に向けた支援をしております。転職するとき障害福祉から医療福祉分野への転職は不安がありましたが、大学の先生に言われた「試験では分野で分かれているが、人の人生は分野で分けられない。つながりがあり、総合的に考えられるようになる必要がある」との言葉を思い出しました。実際に、負傷し病院に入院され、後遺症が残り退院後の生活で障害福祉サービスが必要になるケースや手帳の申請等もあります。そんなときに、障害福祉分野での経験が役にたつことがあります。自分の職分野だけではなく、その人らしく生きることができるように支えるためオールマイティーに知識を深めていく必要があると日々感じています。そのためにも社会福祉士会での研修や活動に積極的に参加していきたいと考えています。

今後も常にアンテナを張り患者さまやご家族の状態や情報だけでなく、社会情勢や各法律や制度等へも関心を持ち、情報をキャッチできるように意識していきたいと思っています。そしてキャッチしただけではなく自ら発信していくことも今後の私の課題であると思っています。

※次回は、古河赤十字病院 地域医療連携室 岡野嘉一さんにバトンタッチします。

～県西ブロック定例会、はじめました～

9月から定例会を開催しています。毎月第3水曜日の19時から。申込不要です。
現在決定している予定は、

11月15日(水) 古河健康の駅視聴覚室『事例研究』

12月20日(水) 結城市民文化センターアクロス(予定)『年末交流会』

参加費は無料ですので、ぜひ一度お越し下さい♪

きっといいコトありますよ ^^ ご参加&お問い合わせ、お待ちしております。

<問合せ・連絡先>

県西ブロック 石塚(旧姓:岩田) mymiwt910@icloud.com

鹿行ブロック研修報告



9月2日（土）潮来市立図書館にて管内会員等12人参加で開催されました。管内会員は様々な職場で資格を活かしながら活躍しています。業務体験を共有することで、今後の活動の幅を広げています。

（研修内容）

○地域移行支援（障害者総合支援法地域相談支援）

精神科病院に長期入院している方の「退院したい」の一言をきっかけに、他職種連携により退院することができたケースが発表されました。

退院支援の過程で、患者本人との信頼関係づくりに加え、精神保健福祉士が「つなぐ人」となり、「本人と家族」・「家族と医療機関」との信頼関係づくりに努めたことで、ゆらいでいた家族の気持ちが変化し、退院へ結びつきました。

患者さんの声「退院っていいですね。洗濯物が自由に干せるんです。」

○介護予防・日常生活支援総合事業

平成29年4月から予防給付のうち訪問介護・通所介護について、市町村が地域の実情に応じた取組ができる介護保険制度の地域支援事業へ移行されました。これは、既存の介護事業所による既存のサービスに加えて、NPO、民間企業、ボランティアなど地域の多様な主体を活用して高齢者を支援していくものです。高齢者が支える側に回ることも想定しています。

介護サービスの利用の手続きについても、介護予防のための基本チェックリストにより、要介護認定申請をすすめるか、基本チェックリストのみで支援サービス事業をすすめるかを判断できるようになりました。要支援については、短時間でサービスを受ける事が大きなメリットとなります。

総合事業の中で、住み慣れた地域のネットワークづくりとして、生活支援コーディネーターの役割が重要になってきます。

研修に際し、地域移行講師は、パワーポイントによる視覚的にわかりやすい資料作成を、介護予防・日常生活支援総合事業講師においては、膨大な資料作成をいただきました。配布された資料を自主学習の参考書として活用していきたいと思います。

さて、鹿行ブロックは、福祉・医療・保健・教育業務に携わっている会員があることから、それぞれの立場で専門的な知識を共有していきます。

次回は、12月2日（土）午前10時レイクエコー（行方市白浜）スクールソーシャルワーカーの働き です。

～ 鹿行ブロックでは、ゆる～い仲間づくりをしていきます。～



ブロック長会議を開催しました！

7月29日にブロック長会議を開催いたしました。理事、県北・県央・県南・県西・鹿行ブロック長、各ブロックの事業担当者が一堂に会し、情報交換及び共有を行いました。

★お知らせ★

2018年1月6日(土)に今年度2回目のブロック長会議の開催を予定しています。



携帯電話やスマートフォン等を利用した連絡網への登録をお願いします！

郵送費等の低減と会員の皆様への情報提供の迅速化を目的とした連絡網システム(マ・メール)へのご登録をお願いいたします。

- ①迷惑メール防止機能をご利用の方は「mamail.jp」からのメールを受信できるようにご設定ください。
- ② csw-ibaraki@mamail.jp に空メールを送信してください。
- ③ 折り返し送られてきた「入会お礼メール」の本文末に記載されているリンクをクリックし、プロフィール入力画面にしてください。
- ④ 表示された画面でプロフィールを入力し、[登録]をクリックして登録完了です。

※登録は、一人につき一つのメールアドレスに限定して頂けるようお願いいたします。



茨城県社会福祉士会のFacebookページもよろしくお願ひします！



<https://www.facebook.com/csw.ibaraki>

各種お知らせや研修会の様子等を発信しています。
皆さまぜひ「いいね！」やフォローをお願いいたします！

※「いいね！」などのご参加を頂くにはFacebookへの登録(無料)が必要となります。
Facebookに登録しなくても閲覧は可能です。



【編集後記】

木の葉の色づきに秋の深まりを感じる今日この頃、年末に向け忙しくされている頃でしょうか？
再来年の茨城大会開催が決まり、今後は企画や準備に会としても忙しくなることが予想されます。近く、実行委員の立ち上げも行われる予定です。準備や当日のボランティアも大募集いたします。大会の成功のためには皆さまの知恵と人手が必要となりますのでぜひご協力のほどお願いいたします。

本会では年明けからも第2回共通基盤研修、定時総会、各ブロックでの定例会や新年会など開催を予定しておりますので、こちらもぜひご参加くださいね。

本年はお世話になりました。来年も引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。
皆さまにとって新年も素敵な年になりますように☆彡

広報事業部

